

私は、議員提出議案第2号 鳥取県立美術館の建設場所の慎重な審議を求める決議について、反対の討論を行います。

先日のマスコミ報道によると、県の教育委員長が3月7日までに建設場所を含めた県立美術館基本構想の結論を出したいという考えを示したということです。今回提案された決議は、それに間に合わせるためだということは言うまでもありません。

決議にあるように、美術館の構想やあり方など、議論や検討が十分に尽くされているとはいえない状況にあるということには同感です。そのような中で、建設場所を決めることはさらなる混乱を招くことにもなりかねません。拙速に建設場所を決定することがないようにと要望するのも当然だと思います。そう言いながら、この決議に賛成できないのは、美術館の建設を前提としている決議だからです。

そもそも、平成11年に計画が凍結された理由は、「巨費を投じるプロジェクトなのに県民の支持や内容検討が不十分」とされたからです。現状はどうでしょうか。アンケート結果を示されたりしますが、本当に県民の支持が得られているのでしょうか。甚だ疑問です。それと、平成20年12月の鳥取県の将来ビジョンでは、「財政事情が許せば県民合意を得た上で美術館を建設」ということですが、財政状況はどのようなのでしょうか。「財政運営は正念場」としたマスコミ報道もあります。改善したのでしょうか。美術館の建設ありきではなく、そもそも論から議論をやり直していただきたいという思いです。この決議には反対ですが、このようなものが提案されることに、県には十分反省すべき点があるという認識を持っていただきたいと思います。そして県民の代表である県議会において、しっかりとした議論、検討を望み、反対討論とします。